

## プール利用者の安全を守る

8/12

### B&G海洋センターにて「救護室配備式」が執り行われました

本川根B&G海洋センターのプール利用者の安全を守るため、公益財団法人B&G財団から救護室が配備され、8月12日に配備式を行いました。

救護室にはエアコンや救護ベッドなどが設置されており、いつでも利用できます。

配備式では、B&G財団の岩井正人常務理事が「救護室としてだけでなく休憩所としても活用し、熱中症予防に努めていただきたい」とあいさつしました。藺田町長は「救護室の設置により、利用者が安心してプールを楽しめる環境が一層充実した」と感謝の意を述べました。



岩井常務理事(前列左から2人目)

室内の様子

## 医薬品配送体制の強化

8/20

### アルフレッサ株式会社と包括連携協定を締結



藺田町長(左)と真野支店長(右)

町は、医薬品卸事業を手がけるアルフレッサ株式会社と包括連携協定を締結しました。

これは、令和7年4月からアルフレッサ株式会社が町内医療機関へのドローンによる医薬品定期配送を開始しており、今後も災害時および平時における医薬品の確保や医療体制の維持などについて連携・協力を進めるため、協定を締結したものです。

真野光司藤枝支店長は「事業を開始して間もないため多くの課題がある。町との連携を一層深めながら、ひとつひとつ着実に解決し、地域に貢献できるよう努める」と述べました。

## 地域と連携して災害に備える

8/31

### 総合防災訓練を実施しました

大規模地震を想定した総合防災訓練が実施されました。役場では警察、消防、自衛隊などで構成する災害対策本部を立ち上げ、被害状況の情報収集や関係機関への応援要請の手順を確認し、実際の災害時さながらの緊張感の中で取り組みました。

町内各地では、33の自主防災会と約2,800人の住民が参加し、備蓄資機材の点検や避難所の運用方法を確認しました。参加者は防災意識を高めるとともに、連携の重要性を再確認しました。

今後も継続して地域と連携した訓練を重ね、災害に強いまちづくりを目指します。



浄水機の操作方法を確認する地域住民ら